

勉強するな！！

～「教室の外」での教育～

グループ2

浅野千晶 川上典子 河村新吾 李帥 森田聖士
榮友里奈 竹内逸人 竹内裕美 渡辺夏子

教育って何ですか？算数、国語、理科、社会…学校でイスに座って、机に向って、紙とペンを使って勉強すること。それだけが教育なのでしょう？

私たちの問題意識は「教育とは何か」という根本的な部分からスタートしたのです。教育を推進するためには何ができるか、何を提案できるか。自主的に勉強をするようにするためにどうすればいいのか。私たちは今回のグローバルセミナーの講義を受けた後、そんなことを延々と考えていました。何を考えても答えはなくひたすら悪循環を積み重ね、一体教育とは何なのか、根本的なことから分からなくなったのです。それでも何とか一つのものができると思ったが、自分たちの求める方向性と違っているような気がして、完成間際にやめて振り出しに戻ってしまいました。

そこで思い切って匙を投げた！「勉強なんてするな」と、これまでの自分たちの意見をひっくり返してみたのです。すると意外に楽しくなって、悶々としていたものが消えた。自分たち若者にしか考えられないような、開き直った発想です。極論を述べて、大人を驚かせたいという気持ちが大きくなりました。

まず、タイトルはもちろん「勉強するな」です。ここに至るまでに抱いた疑問は、「教育は学問だけではないのだろうか」というものなのです。私たちはこれまでずっと今回の発表で自分たちが最終的に伝えたいこと、白川英樹先生もおっしゃっていた「好奇心・童心」をどう子どもたちに持たせることができるかその方法を模索していました。しかし最終になってやっと、「そもそも好奇心・童心を勉強という方向に押し付けるのはおかしい」ということに気づいた。そこからこのテーマが発想できたのです。「教育」という単語を辞書で引いてみると以下のような意味が出てきます。

①教え育てること。人を教えて知能をつけること。人間に他から糸をもって働きかけ、望ましい姿に変化させ、価値を実現する活動。

②①を受けた実績。

どのような意味でしょうか。はじめ、私たちは学校という場、学校というものにこだわって教育をとらえていました。しかし、学校以外でも教育は行われています。たとえば、家庭、会社、社会…さまざまな場所でさまざまな教育が行われています。しかし、「教育を受

ける権利」などの言葉から連想される「教育」のイメージです。そのイメージを払しょくするためにも、私たち2班は教室から出た教育が重要であることを主張したいと思います。

第一に、今日の日本社会における社会問題で人間の内面性や感受性などが問題となった事件が多発しています。特に、人間同士のコミュニケーションの取り方の問題が大きくなっていると思います。これは、核家族化の進展など人と人との関わりが日本社会の中で減少したということが原因としてあげられると思います。それゆえ、都会などでは隣の部屋に誰が住んでいるのか知らない、などということもあると思います。私たちはこの人と人とのつながりの希薄化が人間の豊かさやコミュニケーション力の欠如などの問題につながっていくと考えました。また、いわゆる知識層と呼ばれる人たちについて考えてみようと思います。彼らの能力は社会に出て働く上で、力強い武器になります。しかし、それはあくまで社会の中だけであるとも言えます。仕事から解放された場所、家庭などではどうか。全く通用しないものになるでしょう。彼らは仕事を離れたら、するべき何かを新しく見つけなければ、生きがいのある人生は送れないかもしれません。趣味は人生を豊かにします。仕事ばかりと向き合っていた彼らは新たなフィールドでそのような趣味を見つける手段を容易に思いつくのでしょうか。さらにこどもの現状を考えてみれば、近頃の子どもたちはお受験ブームなどから、学校で勉強、塾で勉強、家で勉強、とどこでも勉強をしなければならぬ状況に追い込まれています。いったいいつ遊ぶのでしょうか？私たちは子どものころから、机にかじりついて勉強をするだけでなく、もっと子ども同士で人と人とのつながりを重視した「遊び」をする必要性を訴えたいと思います。

以上の問題意識から、私たちは幼いころからコミュニケーション能力を高めたり、人とかかわりをおおくもっておくことが重要であると考えます。本来ならば、子どもまたはその家庭と一緒に積極的に地域の活動などに参加していくことが望ましいですが、それが可能な社会ではないという現状があると考えます。そこで私たちは、小学校において修学旅行や職場体験、校外学習、ボランティア活動、老人ホームへの訪問などの小学校から外へ出た社会との関係を構築するような活動をより積極的に導入することを提案します。先に述べたような活動は現在でも確かに行われているとは思いますが、しかし、地域でのつながりが薄れてきた今こそ、再度このような地域との関係性を重視した活動が重要視されるべきなのではないでしょうか。また、学校内でも、動物を飼ったり、学校農園を行うなど、「子どもがひとりではできない活動」を学校側が積極的に導入すべきであると思います。なぜならば、小学校において、子どもが「みんなで」何かを作り上げる喜び、難しさ、楽しさ、大変さを体験し、その過程で友達を好きになったり、嫌いになったり、けんかしたりすることで人とのコミュニケーションを学ぶことができると思います。

以上のように、小学校のころに机にかじりついて勉強するだけでなく、それ以外の活動（それはおそらく子どもにとっては「遊び」なのだと思いますが）に参加することでコミュニケーション力や人との交流を通して子ども個人の感受性も豊かになっていくのではないかと考えています。今日重視されている「教室」という空間での教育では培うことの出

来ない教育を「教室の外」では行える、という可能性を私たちは強く主張したいのです。また、子どもたちが「教室」の枠組みから出て社会で教育を受けるということは、人々とのかかわりが薄れている、今日の社会で新たなつながりを作り出すことにもつながるのではないのでしょうか。これは、人間性を豊かにするだけでなく、社会においての子どもたちの安全性など地域ネットワークの形成にもつながり、地域活性化など地域に根ざした改革にもつながるのではないかと、という期待も抱いています。

しかし、もちろんのことですが「教室」での勉強も忘れてはいけません。その重要性はあくまでも子どもにも保護者にも教師にも強調しつつも、「教室の外」での教育の重要性も同時に訴えていく必要がある、と私たちは主張したいのです。おそらく、この提案にはまだまだたくさん問題があると思いますが、それらの課題を含めさらに人々の心の豊かさ、人間性をのばしていくためにはどのような「教育」が必要であるのか、これからも考えていくことを忘れてはいけないと思います。新しい教育のビジョンとして、私たちが掲げた目標として、豊かな人間性の形成であるがこれからの社会において何か大きな変化をもたらすと、私たちは信じています。